

1. 調査の目的・内容

- ① 県では、県民の主観的な幸福度を把握することを目的に、平成24年度に「県民総幸福量」（AKH）の指標を構築し、令和5年度まで調査を継続して実施。
※平成24年度から令和5年度まで10回実施。平成28年度は熊本地震、令和2年度は豪雨災害等により中止
- ② 調査開始から12年が経過し、近年の社会情勢の変化等を踏まえた主観的幸福度の把握を目的に、「県民総幸福量」の構成に所要の見直しを加えた上で、令和6年度に「しあわせ実感度」の指標を構築し、調査を実施（今回が2回目の調査）。
- ③ 調査の対象者や項目等は次のとおり。

調査対象	県内在住の18歳以上の男女3,500人（無作為抽出）
調査期間	令和7年（2025年）6月19日～7月17日（29日間）
回答者数	1,511名（43.2％）
項目	○ 直観的な幸福度（現在、幸福を感じているか） ○ しあわせ実感度の“4つの分類”を構成する各項目の満足度 ○ しあわせ実感度の“4つの分類”それぞれの重要度 ○ 回答者の属性（性別、年代、居住地、居住年数）

しあわせ実感度の概要

- 「しあわせ実感度」は、県民の主観的幸福度を効果的な施策につなげることを目指して、熊本県が独自に作成した指標。
- 主観的幸福度を構成する要素を「夢や希望を持てる基盤がある」等の4つに分類した上で、それぞれの分類ごとに4つの項目を掲げて、全体の体系を構築。
- 【4つの分類・分類ごとの項目】
- （分類1）夢や希望を持てる基盤がある
項目 → ①家族・友人関係、②仕事関係、③教育環境、④子育て環境
- （分類2）地域への誇りがある
項目 → ①自然環境、②歴史・伝統、③文化芸術・スポーツ、④地域社会・行政
- （分類3）経済的なゆとり、心のゆとりがある
項目 → ①所得・消費、②余暇の充実、③住まい、④豊かな食
- （分類4）健康や生活環境面で将来に不安がない
項目 → ①心身の健康、②生活環境の安全、③防災・治安、④交通基盤
- その上で、県民アンケートで把握した各項目の満足度（県平均）と各分類の重要度（県平均）から、「しあわせ実感度」の全体値を算出（表1参照）。
- ※「しあわせ実感度」の算出方法については、図2参照

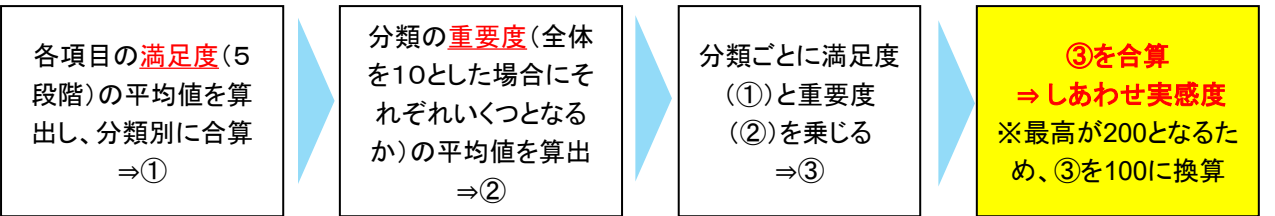
2. 主なまとめ

（1）今年度のしあわせ実感度は「68.5」であった。 ※令和6年度：69.2

表1：しあわせ実感度の算出

分 類 ≪4≫	項 目 ≪16≫	満足度		重要度 (2)	(1×2 =3)	しあわせ実感度 (3の合計÷2)
		平均値	合計(1)			
夢や希望を持てる 基盤がある	家族・友人関係	4.3	14.1	2.91	41.0	68.5
	仕事関係	3.5				
	教育環境	3.2				
	子育て環境	3.1				
地域への 誇りがある	自然環境	3.8	13.8	2.09	28.8	
	歴史・伝統	3.6				
	文化芸術・スポーツ	3.3				
	地域社会・行政	3.1				
経済的なゆとり、 心のゆとりが ある	所得・消費	3.0	13.6	2.72	37.0	
	余暇の充実	3.3				
	住まい	3.6				
	豊かな食	3.7				
健康や生活環境面で 将来に不安がない	心身の健康	3.3	13.2	2.28	30.1	
	生活環境の安全	3.8				
	防災・治安	3.3				
	交通環境	2.8				

図2：しあわせ実感度の算出方法



（参考）調査における「満足度」と「重要度」の回答方法

- ① 満足度
- 4つの分類の項目ごとに（合計16項目）、質問に対する評価を5段階で回答
- 例）【家族・友人関係】
家族や友人は、あなたを理解し、支えてくれていると感じていますか。
5点：感じている 4点：やや感じている 3点：どちらでもない
2点：どちらかと言えば感じていない 1点：感じていない
- ② 重要度
- 4つの分類ごとに、重視する度合いを4分類合計で「10」となるように回答
- 例）分類①：3 + 分類②：2 + 分類③：3 + 分類④：2 = 10

(2) “4つの分類”の重要度・満足度について（1頁／表1参照）

- “4つの分類”について、「重要度」の平均値は、以下の順となった。
- このことから、4つの分類のうち、「家族・友人関係」や「仕事関係」等で構成される「夢や希望を持てる基盤がある」、また、「所得・消費」や「余暇の充実」等で構成される「経済的なゆとり、心のゆとりがある」といった部分が、主観的幸福度の重要な要素となっていることが把握できる。

①「夢や希望を持てる基盤がある」	(2.91)	(R6：3.08)
②「経済的なゆとり、心のゆとりがある」	(2.72)	(R6：2.63)
③「健康や生活環境面で将来に不安がない」	(2.28)	(R6：2.28)
④「地域への誇りがある」	(2.09)	(R6：2.01)

【県全体の平均値から見た総括】

- 上記（2）のとおり、県民アンケートの結果からは、主観的幸福度を構成する4つの分類のうち、「夢や希望を持てる基盤がある」や「経済的なゆとり、心のゆとりがある」の重要度が昨年に引き続き高い。また、「経済的なゆとり、心のゆとりがある」については、重要度が上昇していることが把握できる。一方で、「経済的なゆとり、心のゆとりがある」の満足度は昨年度と比較すると低下しており、このことがしあわせ実感度に影響していると考えられる。
- そのため、「くまもと新時代共創基本方針」（R6.12月策定）の柱の「②世界に開かれた活力あふれる熊本」に関し、県においても、各地域における産業の振興、活力の創出を更に進める必要がある。

(3) 属性別のしあわせ実感度（クロス集計結果）について

① 年齢階層別（図3参照）

- しあわせ実感度は、県平均（68.5）に対し、10,20歳代が最も高く（71.1）、40歳代が最も低くなった（65.3）。
- 10,20歳代の場合、4つの分類のうち「夢や希望を持てる基盤がある」の「重要度」が年齢階層別で最も高く、かつ、この「満足度」も年齢階層別で最も高いことなどが、しあわせ実感度の高さに結びついている。
- 一方、40歳代の場合、4つの分類の重要度の順位付けは他の年齢階層と同じものの、すべての満足度が年齢階層別で最も低く、しあわせ実感度に影響している。

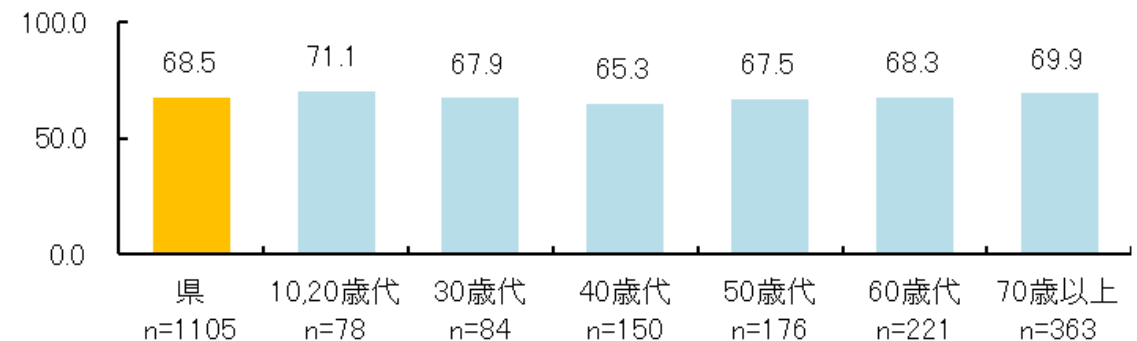
② 地域別（図4参照）

- しあわせ実感度は、県平均（68.5）に対し、阿蘇地域が最も高く（70.7）、芦北地域が最も低くなった（65.8）。
- 宇城地域、玉名地域、菊池地域、阿蘇地域、上益城地域で前年度より数値が上昇し、それ以外の地域では数値が低下した。
- 阿蘇地域については、4つの分類のうち「地域への誇りがある」の「重要度」が最も高く、かつ満足度も高い傾向にあることがしあわせ実感度の高さに結びついている。
- 一方、芦北地域については、4つの分類のうち「夢や希望を持てる基盤がある」、「経済的なゆとり、心のゆとりがある」の「満足度」が地域別で最も低いことなどが、しあわせ実感度に影響している。

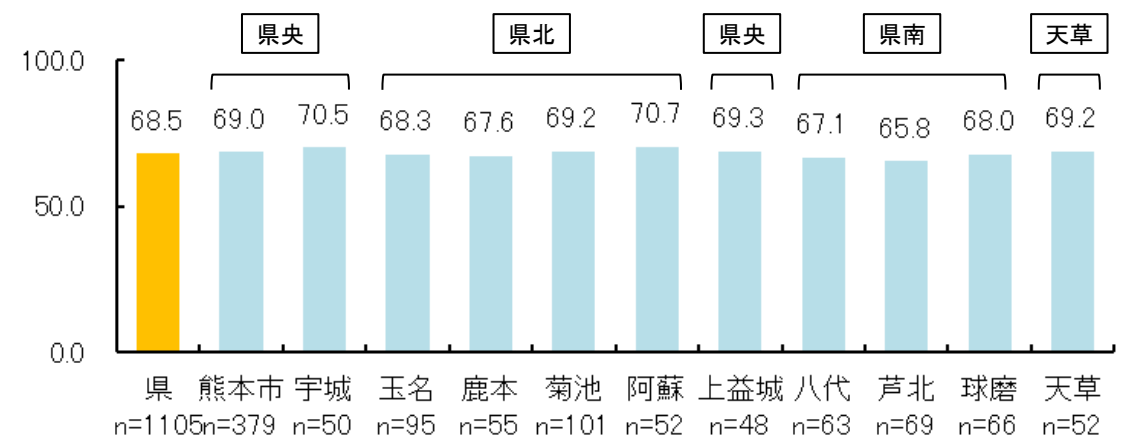
- “4つの分類”について、「満足度」の数値（各分類の4項目の平均値の合計）は、以下の順となった。
- このように、特に「家族・友人関係」や「仕事関係」で構成される「夢や希望を持てる基盤がある」について、満足度が比較的高い水準となっている。

①「夢や希望を持てる基盤がある」	(14.1)	(R6：14.2)
②「地域への誇りがある」	(13.8)	(R6：13.7)
③「経済的なゆとり、心のゆとりがある」	(13.6)	(R6：13.9)
④「健康や生活環境面で将来に不安がない」	(13.2)	(R6：13.4)

【図3：年齢階層別のしあわせ実感度】



【図4：地域別のしあわせ実感度】



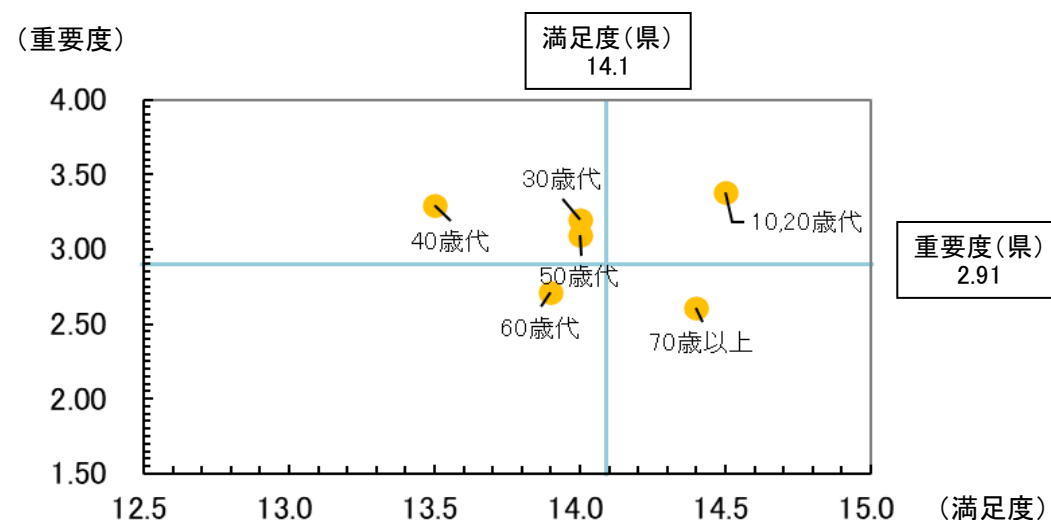
※ 図3及び図4ともに、n(有効回答数)は、ウエイトの有効回答数。
 ※ nが小さくなるほど、統計上の誤差が大きくなることに留意。
 ※ 10歳代ではnが少ないため20歳代と統合して表記。

3. 満足度と重要度の関係（R7）／年齢階層別

※横軸：満足度／縦軸：重要度／青線：県全体値

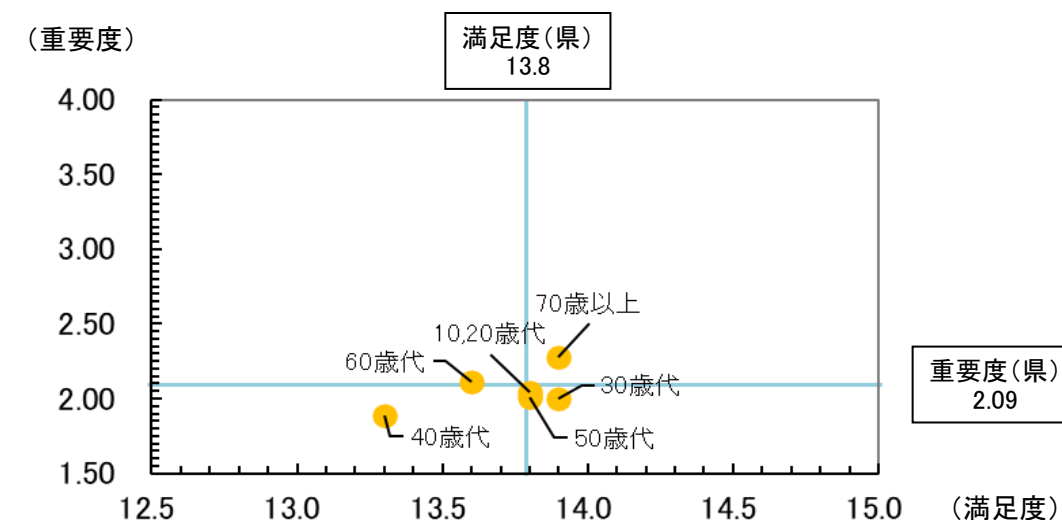
- 年齢階層別では、10,20歳代のしあわせ実感度が最も高く（71.1）、40歳代が最も低くなっている（65.3）
- 10,20歳代の「満足度」は高い傾向である一方、40歳代はすべての項目において「満足度」が最も低い。
- 前年度同様、全体として30歳代～50歳代という、生産年齢人口（15歳～64歳）の中心的世代の「満足度」が低い傾向にある。県においても、4つの分類のうち「重要度」の高い、「夢や希望を持てる基盤がある」「経済的なゆとり、心のゆとりがある」を構成する項目の「満足度」向上を意識した施策展開が重要と考えられる。

<夢や希望を持てる基盤がある>



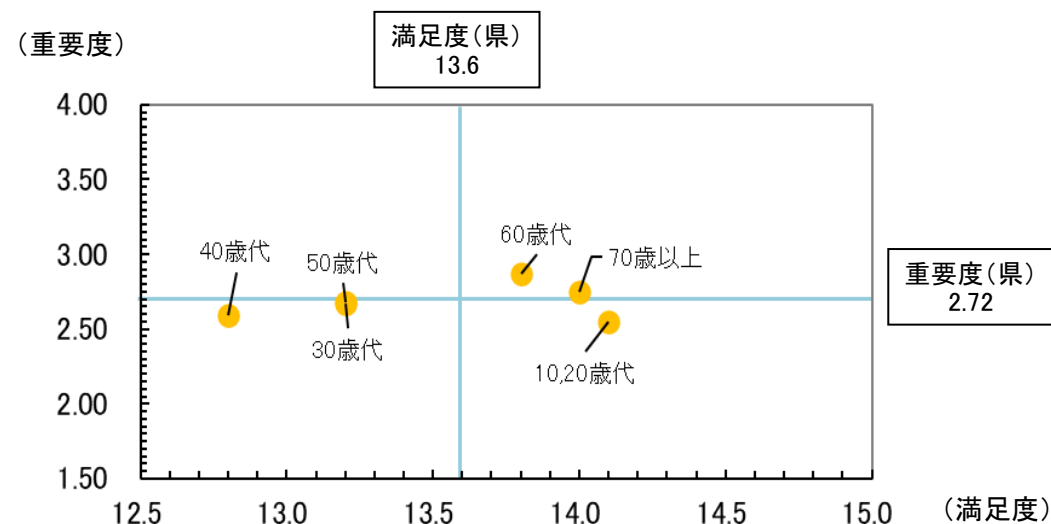
	県	10,20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
満足度	14.1	14.5	14.0	13.5	14.0	13.9	14.4
重要度	2.91	3.38	3.20	3.29	3.09	2.71	2.61

<地域への誇りがある>



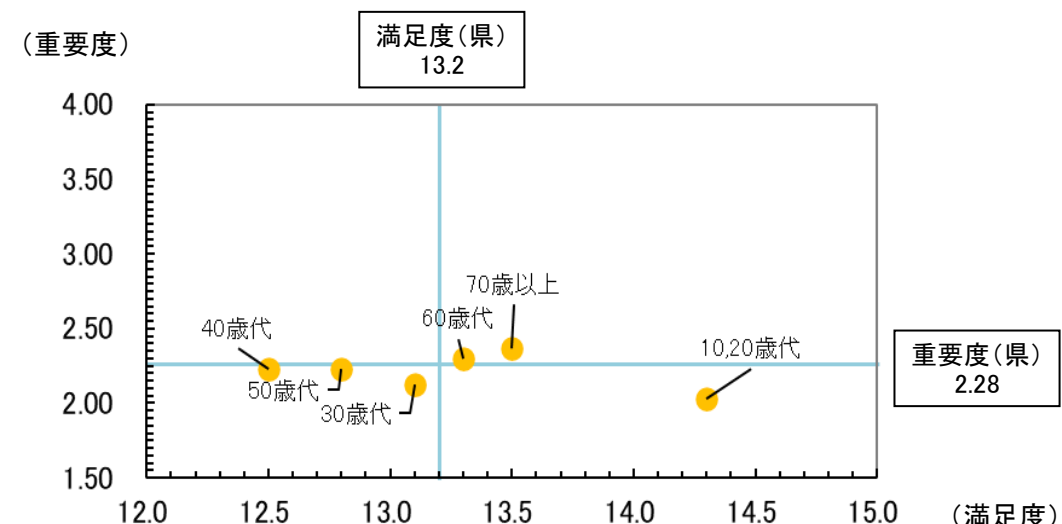
	県	10,20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
満足度	13.8	13.8	13.9	13.3	13.8	13.6	13.9
重要度	2.09	2.04	2.00	1.89	2.01	2.11	2.28

<経済的なゆとり、心のゆとりがある>



	県	10,20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
満足度	13.6	14.1	13.2	12.8	13.2	13.8	14.0
重要度	2.72	2.55	2.67	2.59	2.68	2.87	2.75

<健康や生活環境面で将来に不安がない>



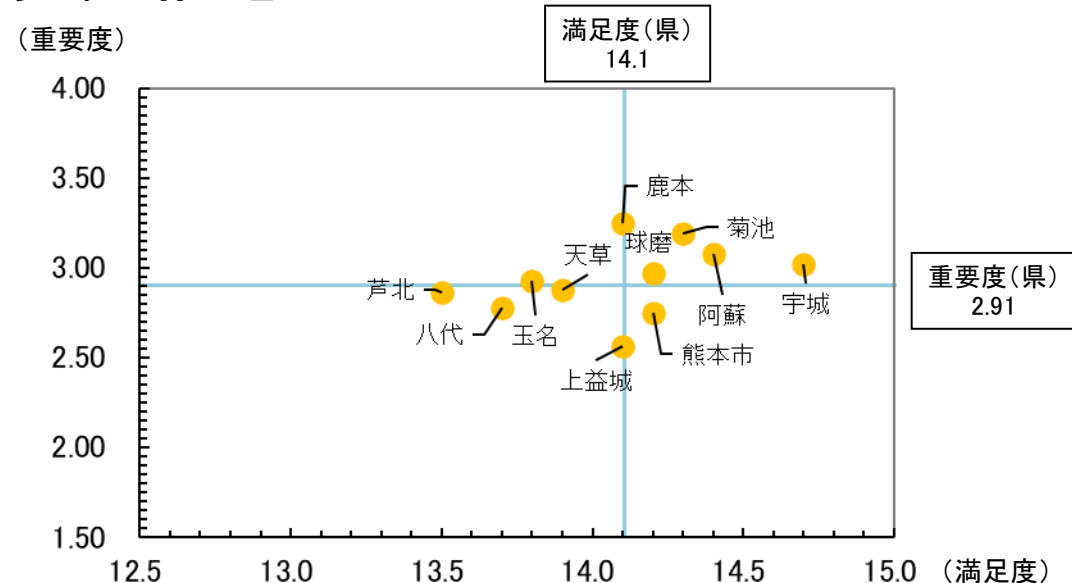
	県	10,20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
満足度	13.2	14.3	13.1	12.5	12.8	13.3	13.5
重要度	2.28	2.03	2.13	2.23	2.23	2.30	2.37

3. 満足度と重要度の関係（R7）／地域別

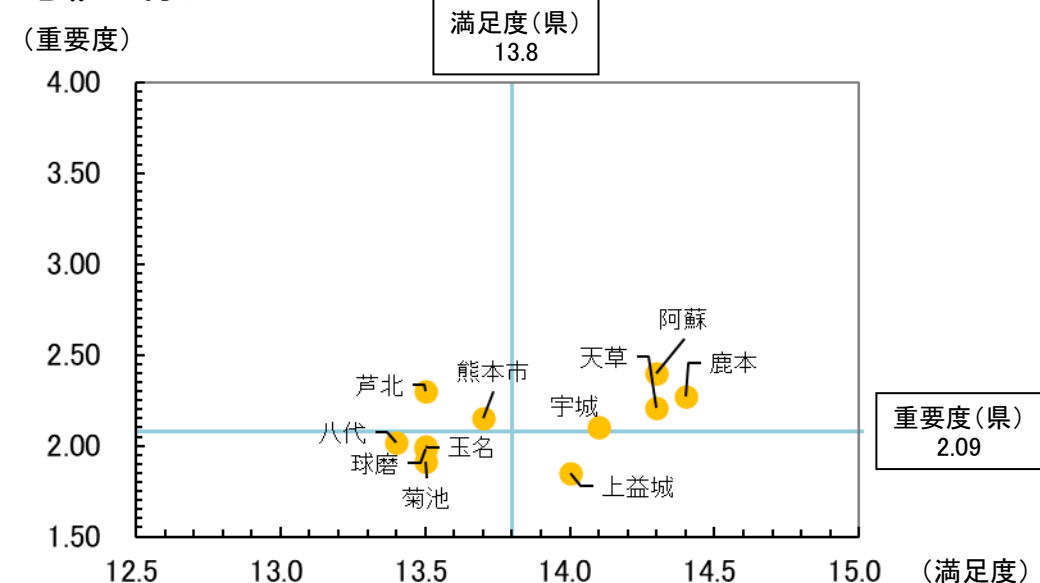
※横軸：満足度／縦軸：重要度／青線：県全体値

- 地域別の「しあわせ実感度」では、阿蘇が最も高く（70.7）、芦北が最も低くなっている（65.8）。
- 阿蘇地域は、「満足度」がどの項目についても高い傾向にある。
- 4つの分類ごとに「満足度」を見ると、「夢や希望を持てる基盤がある」では宇城地域、「地域への誇りがある」では鹿本地域、「経済的なゆとり、心のゆとり」では宇城地域や阿蘇地域、「健康や生活環境面で将来に不安がない」では阿蘇地域が高いなど地域差があり、県においても、地域の状況を捉えた施策展開が重要と考えられる。

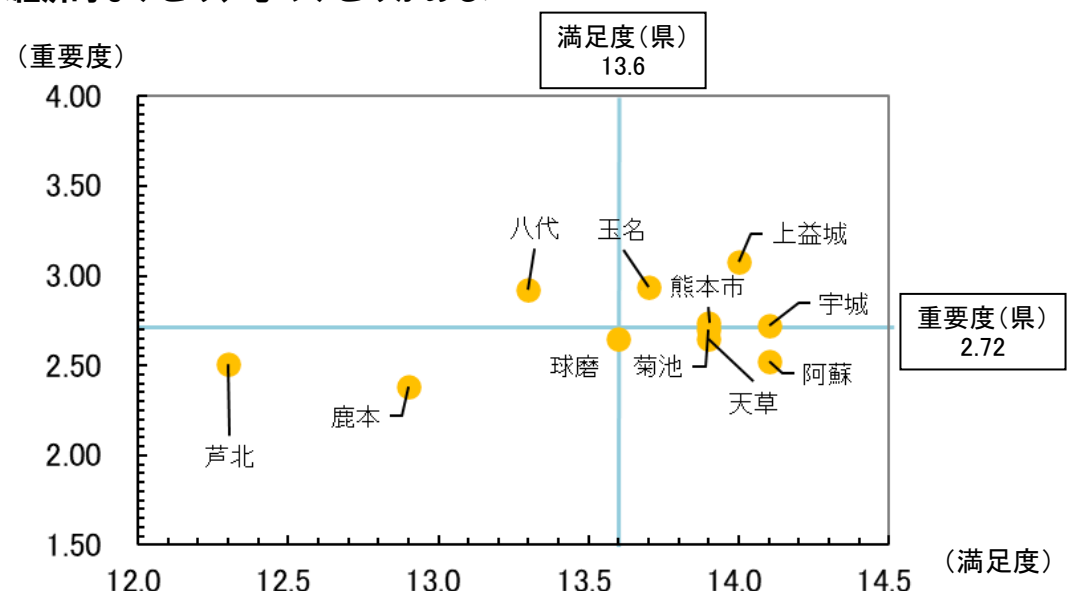
<夢や希望を持てる基盤がある>



<地域への誇りがある>



<経済的なゆとり、心のゆとりがある>



<健康や生活環境面で将来に不安がない>

